

46年度

7 軟式庭球部

委員長 飯島 隆

本年度も無事に行事の終了を見ました。関係各位の御協力に深く感謝します。

今年は山口勇吉部長勇退のあと、土浦二高校長田尻正義先生に後任部長をお引き受け頂いた。田尻部長には委員の立場をよく御理解下さって大会や会議にも出席され、私達委員も顔負けするほどの熱意を示され、誠に心強く感じる次第です。

例年通り委員の顔ぶれも若干変り新しく県北地区西野(太二)、県南地区渡辺(土三)、水戸地区永井(常北)、県東地区方波見(鉾二)の各先生を迎え、新たな陣容のもと完璧な運営を期してスタートした。委員会はシードや運営論をめぐり、しばしば大激論を展開した。これもあくまで選手中心主義と公正の原則に立脚しようとする委員らの熱意から来ているものであろう。途中、小島真先生(妻二)が一身上の都合で退職されたことは突然のこと故、意外であった。永年県西地区委員として、又専門部副委員長として活躍下さったこと感謝申し上げたい。

茨城国体も3年後に迫り県選手強化対策本部も本腰で対策に乗り出した。46年度は当軟式庭球部に対して国体候補選手合宿に対して、男子は2泊3日、合宿練習2回、女子は2泊3日7回、合宿練習3回、遠征1回分の費用が予算化された。専門部強化係の先生方には大変御苦勞をかけた。また茨城国体選手強化協力校も指定され、男子校では土浦三・古河一・日立工・下妻一、女子校では土浦二・鉾田二・日立二・結城二・磯原の各校が協力を依頼された。しかし協力校だけがやればよい

というのではなく、他の優秀選手については候補選手として強化をはかる方針のようであるから各校に於てはそれぞれの角度から独自の選手育成を試みて頂きたい。

さて、本年度各種大会に於ける各学校別の活躍状況を概観してみる。

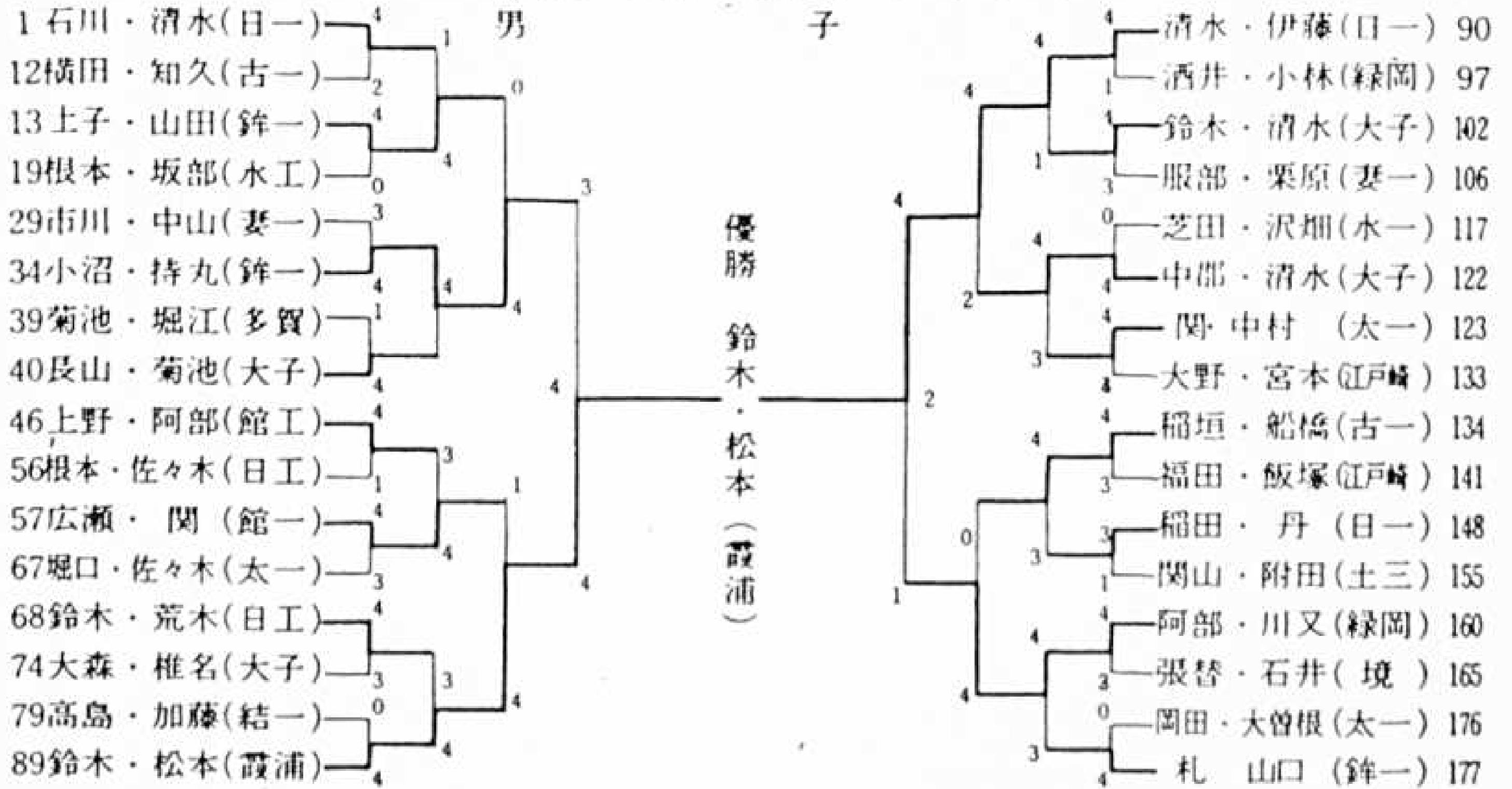
男子校では関東大会県予選で土浦日大が初優勝、霞浦高が2位となり、予想外の学校の進出ぶりに目をみはった。国体地元校という意識があって強化練習の成果を得たものであろう。県代表が私立校で独占されたのも珍しい。一方女子は鉾田二が圧倒的強さで優勝。土浦二が激しく迫る日立二に勝ち、それぞれ宇都宮での関東大会に臨んだ。しかし男子は両校とも不振で、千葉県勢に一回戦で屈した。女子は昨年鉾田二が優勝しているので連続優勝を期待したがだめだった。

土浦二はよく戦い準決勝で千葉一宮商に敗れたものの三位入賞を果たして辛うじて面目を保った。

続く全日本県予選は関東大会出場の土浦日大、霞浦は早くも姿を消し、決勝リーグで緑岡脱落のあと日立一・大子一・太田一が三者同率のすえ、太田一が僅差で優勝した。女子は今年こそはとねらう鉾田二を土浦二が猛烈なファイトで打ち破り、見事全勝優勝、2年ぶり8回目の優勝となった。徳島でのインターハイは台風19号を直接にうけて女子団体はインドアで行われた。3回戦で愛媛清美に敗れたが、土浦二としては全力投球の試合だった。太田一は初出場のせいも、對手宮古高に苦戦を喫した。

昭和46年度県高校軟式庭球春季選手権大会

4月24・25日 於県立スポーツセンター

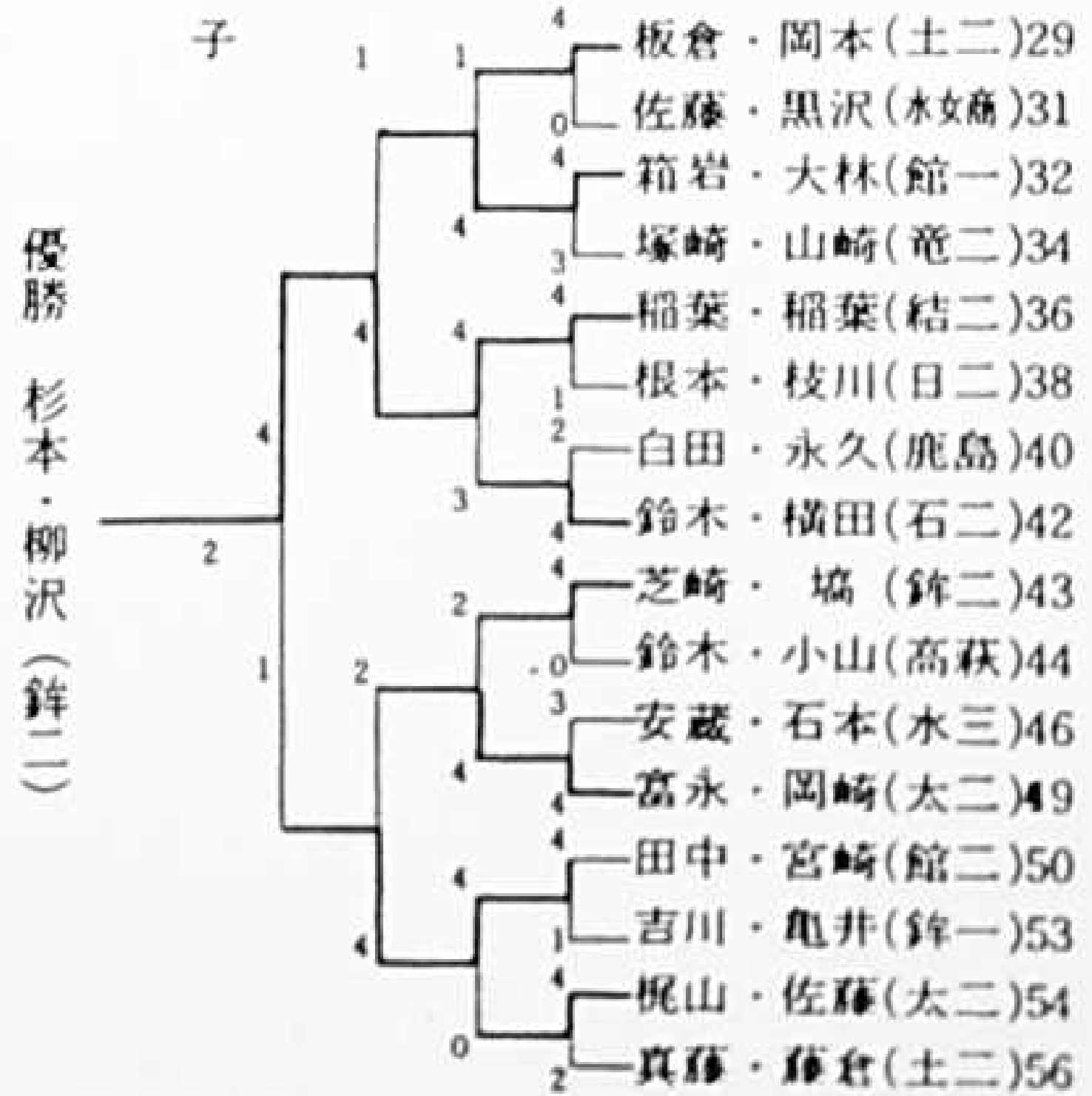
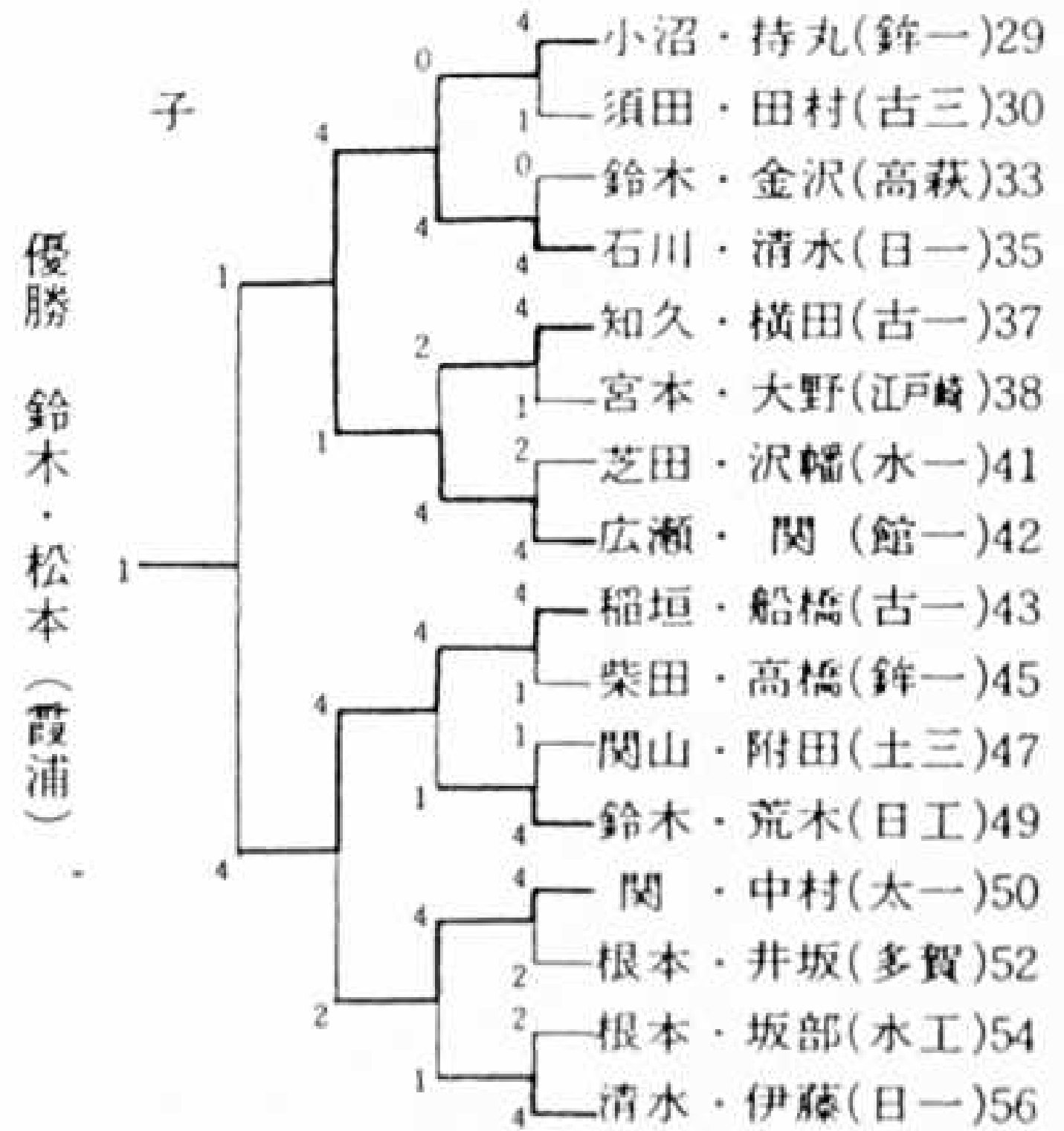


〔戦評〕 男子177組、女子175組のエントリーであったが棄権男子9組、女子7組あったのは修学旅行などの影響か。新年度早々の大会だけにコンディション調整の出来ない選手もあったようだ。それにしても男子で1シード、2シードをはじめ中シードがガタガタに崩れたのは何を意味しているのだろうか。鈴木・松本(霞浦)と清水・伊藤(日一)の争いになった

が鈴木組がここで優勝したことは今後の自信につながるだろう。女子はシード組が順調に勝ち、しかも内容的に大層盛り上がりがあった。杉本・柳沢(銚二)が真藤・藤倉を振り切って優勝。田口・米川(銚二)は初出場で立派に戦った。学校別では石二、銚二、土二が選出。関東予選の激突を物語っているようだ。(飯島)

関東高校軟式庭球選手権県予選（個人戦）

昭和46年5月16日 於土浦市営コート・土浦二高コート



(戦評) 高校選手生活中せめて関東ぐらゐは出場してみたいという真剣さがみられた。男子団体は土浦日大と霞浦高が共に代表となった。伝統ある日立一、銚一、大子を降したのは立派な出来であった。女子は予想通りに土二・銚二・石二・日二の争いとなり、平均力をもつ石二は意外に不振だった。銚二は杉本・柳沢を主力に選手を上手に使って優勝。土二

は日二に辛勝した余勢で2位、連続12年出場の記録。

個人戦男子は鈴木・松本(霞浦)が稲垣・船橋(古一)を破り優勝、又もシード組がきえない。女子は杉本・柳沢(銚二)の一人舞台の感があった。真藤・藤倉(土二)が惨敗したほかシード組が見るに忍びない成績だった。天候が悪ければそれに順応できる練習の必要さを感じさせる。(飯島)

第七回県民総合体育大会

兼第23回全日本高校軟式庭球選手権大会県予選会

6月20日 水戸市営・県営コート



(戦評) 土浦日大、霞浦が流星の如く消えた後、太子・日一・太一が接戦。よもや太田一に優勝をさらわれるとは誰も予想しなかった。太田の感激は一入。女子団体は石二が脱落。決勝は銚二・日二・土二・結二の争い。土浦二は銚二を2-1で破り関東での嘗ての覇を果し8度目の全国出場。銚田は昨年続き又も全国への夢を失った。尚この大会は県民総体を

兼ねたのでこの成績がそのまま、参加校の得点となった。個人戦では鈴木・松本(霞浦)が上野・阿部(館工)を破り優勝。主力選手が不覚をとり宮本・大野(江戸崎)の活躍が目立つ。女子は杉本組が推薦で田口・米川(銚二)が決勝に出たが田中・宮崎(館二)が優勝。日二・土二・石二の主力組が失格したのは淋しい限りだ。(飯島)

第22回関東大会県予選 (団体戦)
5月15日 土浦二高・市営コート
男子予選リーグA

	日大	下館工	日一	鹿島	大子	勝負	順位
日大	—	③	②	③	1	3-1	1
下館工	0	—	1	1	0	0-4	5
日一	1	②	—	②	1	2-2	3
鹿島	0	②	1	—	②	2-2	4
大子	②	③	②	1	—	3-1	2

男子予選リーグB

	古一	水商	銚一	霞浦	多賀	勝負	順位
古一	—	③	0	②	1	2-2	4
水商	0	—	0	1	1	0-4	5
銚一	③	③	—	1	②	3-1	1
霞浦	1	②	②	—	②	3-1	2
多賀	②	②	1	1	—	2-2	3

男子決勝リーグ

	大子	霞浦	日大	銚一	勝負	順位
大子	—	1	②	1	1-2	4
霞浦	②	—	0	②	2-1	2
日大	1	③	—	②	2-1	1
銚一	②	1	1	—	1-2	3

代表
代表

第7回県民総合体育大会兼全日本高校軟式庭球選手権大会県予選
6月19日 於県営スポーツセンター・水戸市営コート

男子予選リーグA

A	日大	鹿島	大子	館工	日一	勝点	順
日大	—	③	0	2	1	2	3
鹿島	0	—	0	1	0	0	5
大子	③	③	—	2	1	3	2
館工	1	②	1	—	1	1	4
日一	②	③	②	2	—	4	1

男子予選リーグB

B	緑岡	霞浦	銚一	古一	太一	勝点	順
緑岡	—	②	②	②	0	3	1
霞浦	1	—	1	1	②	1	5
銚一	1	②	—	1	②	2	4
古一	1	②	②	—	1	2	3
太一	③	1	1	②	—	2	2

男子決勝リーグ

	緑岡	太一	日一	大子	勝点	順	備考
緑岡	—	0	0	1	0	4	
太一	③	—	③	0	2	1	代表
日一	③	0	—	②	2	3	
大子	②	③	1	—	2	2	

女子予選リーグA

	大成	結二	太二	銚二	石二	勝負	順位
大成	—		0	1	0		
結二		—	②	1	1		
太二	③	1	—	0	1		
銚二	②	②	③	—	②	4-0	1
石二	③	②	②	1	—	3-1	2

女子予選リーグB

	下館一	日二	水三	土二	銚一	勝負	順位
下館一	—		1	0	②		
日二		—	③	1	③		2
水三	2	0	—	0	③		
土二	③	②	3	—			1
銚一	1	0	0		—		

女子決勝リーグ

	銚二	土二	石二	日二	勝負	順位
銚二	—	②	②	②	3-0	1
土二	1	—	②	②	2-1	2
石二	1	0	—	0	0-3	3
日二	1	1	③	—	1-2	4

代表
代表

女子予選リーグA

	太二	結二	銚二	大成	石二	勝点	順
太二	—	1	0	③	③	2	3
結二	②	—	0	②	②	3	2
銚二	③	③	—	③	1	3	1
大成	0	1	0	—	1	0	5
石二	0	1	②	③	—	2	4

女子予選リーグB

	水商	日二	土二	館一	銚一	勝点	順
水商	—	0	1	1	0	0	5
日二	③	—	0	②	③	3	2
土二	②	③	—	③	③	4	1
館一	②	1	0	—	②	2	3
銚一	③	0	0	1	—	1	4

女子決勝リーグ

	銚二	日二	土二	結二	勝点	順	備考
銚二	—	1	1	③	1	3	
日二	②	—	0	③	2	2	
土二	②	③	—	③	3	1	代表
結二	0	0	0	—	0	4	

第26回（昭和46年度）国体軟式庭球県予選

7月26日・8月12日 水戸市営コート

○男子第1次予選リーグ上位成績(各ブロック5組中2位まで)

- A ①鈴木・松本(霞浦) 4勝0敗 ②知久・横田(古一) 3勝1敗
 B ①清水・伊藤(日一) 4勝0敗 ②宮本・大野(江戸崎) 3勝1敗
 C ①中郡・清水(太子) 3勝1敗 ②札 山口(鉾一) 2勝2敗
 D ①稲垣・船橋(古一) 3勝1敗 ②小沼・持丸(鉾一) 3勝1敗
 E ①鈴木・清水(太子) 4勝0敗 ②柴田・高橋(鉾一) 2勝2敗
 F ①上野・阿部(館工) 4勝0敗 ②稲田・丹(日一) 3勝1敗

○男子第2次予選リーグ上位成績(各ブロックの4組中2位まで)

- A ①中郡・清水(太子) 2勝1敗 ②柴田・高橋(鉾一) 2勝1敗
 B ①稲垣・船橋(古一) 2勝1敗 ②鈴木・清水(太子) 2勝1敗
 C ①鈴木・松本(霞浦) 3勝0敗 ②上野・阿部(館工) 2勝1敗

決勝リーグその1

男子第1次	中郡 清水 (太子)	上野 阿部 (館工)	稲垣 船橋 (古一)	鈴木 清水 (太子)	柴田 高橋 (鉾一)	鈴木 松本 (霞浦)	勝点
中郡 清水 (太子)		2	1	④	④	3	2
上野 阿部 (館工)	④		④	④	④	2	4
稲垣 船橋 (古一)	④	3		④	④	④	4
鈴木 清水 (太子)	2	1	1		④	2	1
柴田 高橋 (鉾一)	2	1	2	2		1	0
鈴木 松本 (霞浦)	④	④	3	④	④		4

決勝リーグその2

男子第2次	上野 阿部 (館工)	鈴木 清水 (太子)	鈴木 松本 (霞浦)	稲垣 船橋 (古一)	中郡 清水 (太子)	柴田 高橋 (鉾一)	勝点	合計 勝負	順位	備考
上野 阿部 (館工)		④	④	2	④	④	4	8-2	2	代表
鈴木 清水 (太子)	1		3	3	2	④	1	2-8	5	
鈴木 松本 (霞浦)	1	④		3	④	④	3	7-3	3	代表
稲垣 船橋 (古一)	④	④	④		3	4	3	8-2	1	代表

中部 清水(大子一)	1	④	1	④		3	2	4-6	4
柴田 高橋(鉾一)	1	2	2	1	④		1	1-9	6

◎決勝リーグその1, その2の通算成績で代表を決定。

○女子第1次予選リーグ上位成績(各ブロック5組中2位まで)

- A ①千田・大越(日二) 4勝0敗 ②小沼・小沼(鉾二) 2勝2敗
 B ①真藤・藤倉(土二) 3勝1敗 ②石塚・飯塚(海二) 3勝1敗
 C ①松本・長尾(結二) 3勝1敗 ②柴田・芝(鉾一) 3勝1敗
 D ①田中・宮崎(館二) 4勝0敗 ②富永・岡崎(太二) 2勝2敗
 E ①田口・米川(鉾二) 3勝1敗 ②木村・増田(土二) 3勝1敗
 F ①板倉・岡本(土二) 3勝1敗 ②芝崎・塙(鉾二) 3勝1敗

○女子第2次予選リーグ上位成績(各ブロック4組中2位まで)

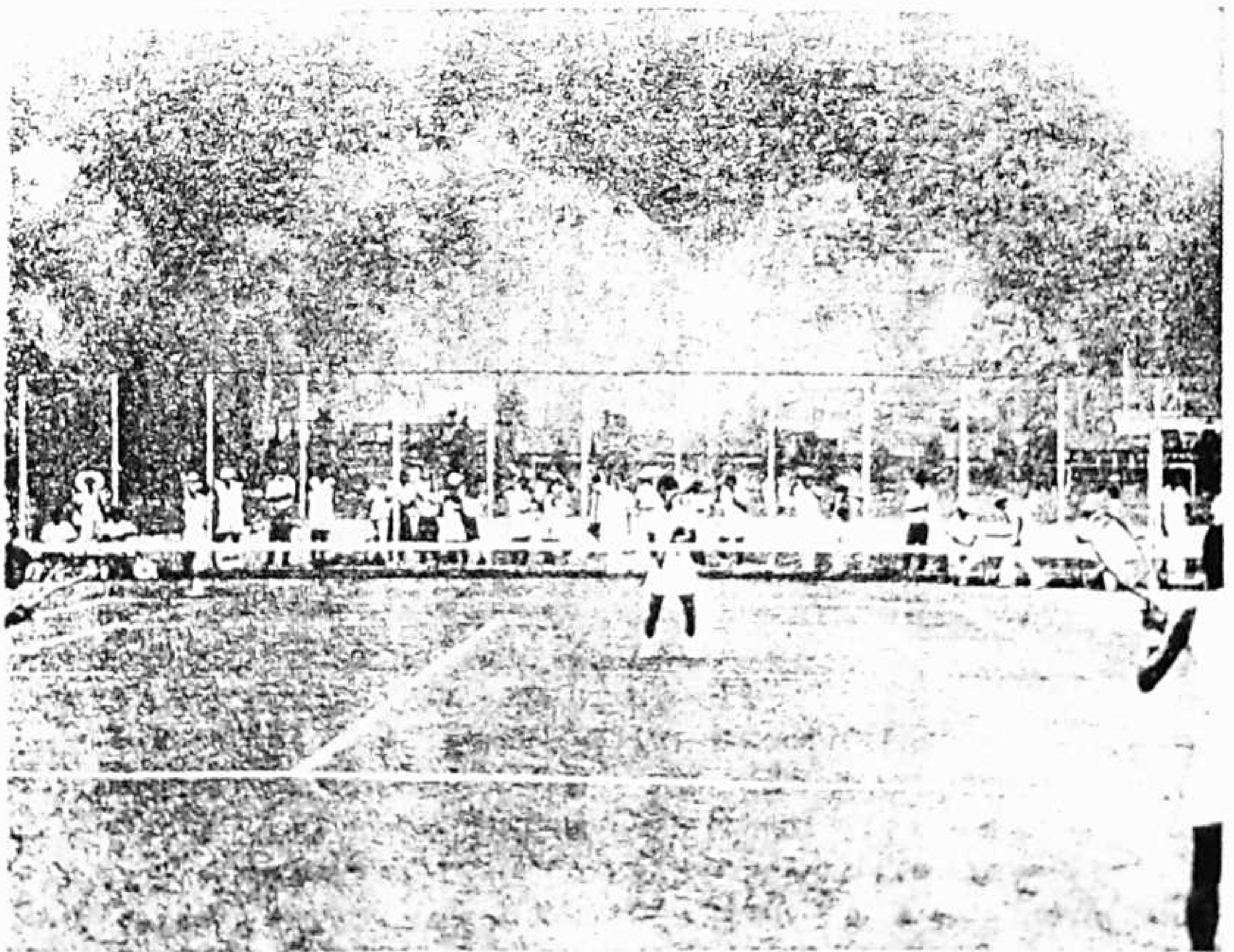
- A ①田口・米川(鉾二) 3勝0敗 ②富永・岡崎(太二) 2勝1敗
 B ①真藤・藤倉(土二) 3勝0敗 ②小沼・小沼(鉾二) 2勝1敗
 C ①芝崎・塙(鉾二) 3勝0敗 ②板倉・岡本(土二) 2勝1敗

決勝リーグその1

女子 第1次	真藤 藤倉 (土二)	小沼 小沼 (鉾二)	芝崎 塙 (鉾二)	富永 岡崎 (太二)	板倉 岡本 (土二)	田口 米川 (鉾二)	勝点
真藤 藤倉 (土二)		3	2	④	④	④	3
小沼 小沼 (鉾二)	④		1	3	0	1	1
芝崎 塙 (太二)	④	④		④	④	④	4
富永 岡崎 (土二)	1	④	0		④	3	2
板倉 岡本 (鉾二)	1	④	3	3		3	1
田口 米川 (二)	1	④	2	④	④		3

大会 第2次	茨城 (準二)	小沼 (準二)	小沼 (準二)	芝罘 (準二)	田川 (準二)	宮崎 (準二)	江藤 (準二)	勝 点	合 計 勝 負	順 位	備 考
茨城		④		2	④	④	④	1	5-5	3	
小沼	1			3	1	④	2	1	2-8	6	
芝罘	④	④			④	3	④	4	9-1	1	代表
田川	2	④		2		3	2	1	4-6	4	
宮崎	1	0		④	④		1	2	4-6	5	
江藤	2	④		2	④	④		3	6-4	2	代表

能登 杉本・柳沢 (準二)

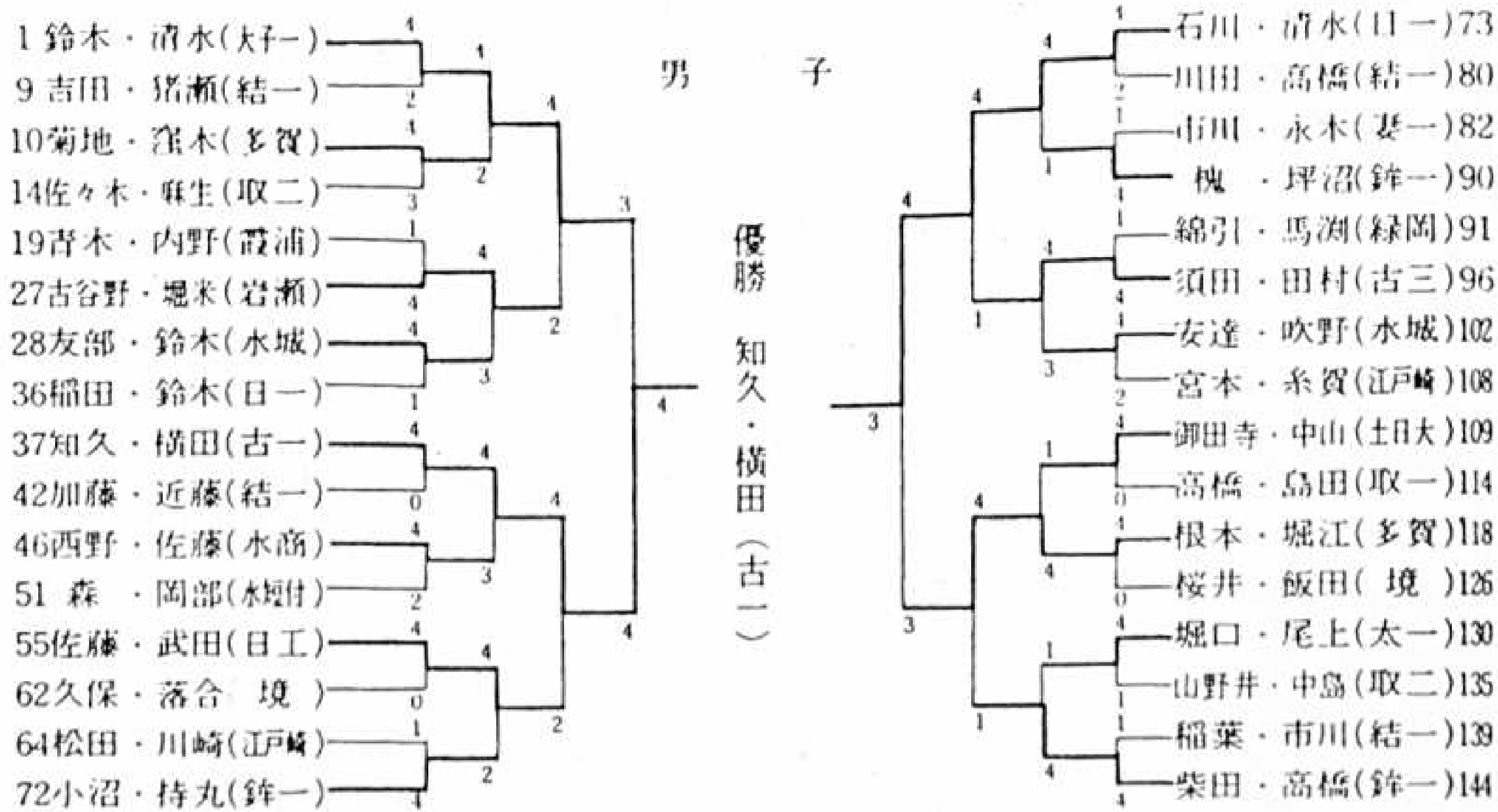


(全国高校軟式野球の熱戦) 芝罘・奥組 曾田二

12

昭和46年度第14回茨城県高校軟式庭球新人選手権大会

木 10月30日 水戸市営・緑岡高・県営コート



(戦評) 今年から地区制限で行ない男女共144組づ、計288組が出場。初日雨のため1日延びた。シード組順調に勝ち準決で知久・横田(古一)が鈴木・清水(大子)を、石川・清水(日一)が根本・堀江(多賀)を破り決勝に出た。古河・日一戦は日一が3-1とリードしたが古一盛返し3-3のFG。古河は左利きと山の端にかかった陽光を利用して見事栄冠。全体的に上位チームに間合をとりすぎがあったの

は遺憾。(渡辺)女子は芝崎・塙(鉾二)が篠田・皆川(日二)を4-3で降したあと同一校後輩チームの田口・米川(鉾二)が新鋭宇佐美・増田(太二)を押えて決勝進出同士打ちとなった。1年生が2年生を破り実力の世界の厳しさをはっきりと示した。地区予選を経た選手だけにきびきびした試合運びがみられ進行もスムーズに行き大成功だった。

第7回県高校軟式庭球インドア選手権(関東インドア予選会)

11月12日 県営スポーツセンター

決勝リーグ

男子	多賀	太子一	日一	古一	勝負	順位	
根本・堀江(多賀)		④	1	④	2-1	3	代表
鈴木・清水(太子一)	3		2	2	0-3	4	
石川・清水(日一)	④	④		2	2-1	1	代表
知久・横田(古一)	2	④	④		2-1	2	代表

女子	銚二	太二	日二	土二	勝負	順位	
芝崎・塙(銚二)		1	2	④	1-2	3	代表
宇佐美・増田(太二)	④		④	④	3-0	1	代表
篠田・皆川(日二)	④	1		2	1-2	4	
坂・大久保(土二)	1	3	④		1-2	2	代表

(戦評) 関東高校インドア出場権をかけて熱気のこもった試合が展開された。男子は新人戦のベスト4がそのまま、決勝リーグへ進み最後まで勝敗のつかない互角の戦いだった。太子は善戦空しく戦れ、日立一・古河一・多賀が代表となった。

女子は第1シードの田口・米川(銚二)が伏兵坂・大久保(土二)に敗れる番狂わせがあった。決勝では宇佐美・松田(太二)が善戦して優勝。日立の浅田・皆川を敗った土浦二が逆転勝ちで2位、3位は芝崎・塙(銚二)。暗いインドアと苦情が出たが入江所長の配慮で解決。